

子どもが自分の気持ちを話せるチャット

「子どもしゃべり場」

報告書

認定 NPO 法人エンパワメントかながわ



ようこそ、「子どもしゃべり場」へ



新型コロナウイルス感染症拡大によって、私たちの生活様式は大きく変わりました。

学校へ行きたくても行けない、友だちに会えない、外出自粛を強いられて自宅で過ごすことが続きました。

テレビからは毎日「コロナは危険だ」「コロナにかかると、死んでしまう」等の報道。緊急事態宣言によって生活が困窮、感染に困惑するおとなの姿ばかりが伝えられていきました。

常にその傍らにいる子どもたちはどんな思いをしているのだろう。子どもに寄り添い、安心を守るためにできることはないかと私たちは話し合いを重ねました。

子どもたちが自分の気持ちを話せる場を作りたい。そんな思いでスタートしたのが、「子どもしゃべり場」です。

連絡用ツールとして子どもたちの間にも広がっている無料通信アプリ LINE を活用し、2020年4月に開設しました。

「子どもしゃべり場」について

- ・開設している曜日：毎週 月・金曜日
- ・時間：19時から21時 *変更になることもあります
- ・参加できる人：18歳までの子ども
- ・1対1のトーク ・秘密は守られます
- ・認定 NPO 法人エンパワメントかながわが運営

「子どもしゃべり場」に参加するには

子どもしゃべり場の LINE 公式アカウントと友だちになることが必要。追加方法はID検索や、QRコードを読み込む等で簡単にできます。
ID：187kimochi



「子どもしゃべり場」が大切にしていること

1. ひたすら話を聴く
2. 気持ちを聴く
3. アドバイスをしな
4. 子どもの存在を肯定する
5. あなたは一人ではない

“ど～んな気持ちも大切だよ、今、どんな気持ち？
気持ちには、いいとか悪いとかはありません。言葉にして、誰かに話して聴いてもらおう。

子どもの気持ちを“聴く”

ずっと我慢してきた、でも、もう爆発しそう

死にたい

イライラする

リスカしたい

消えたい

悲しい

苦しい

自分が悪い

私は大切？

私は嫌だった

私は傷ついている

子どものエンパワメント



★「気持ちを聴く」とは、ありのままを受け入れること。受け入れられることで安心できる。

「死にたいくらい気持ちなんだね」「話してくれてありがとう」
どんな話も聴いてくれる場だと感じると少しずつ話し始め、そのうちに「悲しい」「苦しい」など不安な気持ちや心の叫びを話し出す。どんなネガティブな言葉にも蓋をせず気持ちの言葉を繰り返しながら受け止める。「リスカするくらい辛いんだね」

★安心なところでは「気持ちを感じる」ことができる

「あなたは悪くないよ」「あなたは大切な人だよ」「あなたは暴力を受けずに生きていく権利があるよ」など、肯定的な言葉をたくさん伝えながら一生懸命に、とにかくひたすら話を聴き続ける。

★自分がどう感じているかわかると選ぶことができる

いつもモヤモヤしていたのは、自分が傷ついていたからだ。心の奥底に隠さなければと信じていたものを吐き出し、受け止めてもらうことで自分の本当の気持ちに気づき、自らの意思で次の行動を選ぶことができる。



データからみる「子どもしゃべり場」

実施：2020年4月27日～2021年3月29日

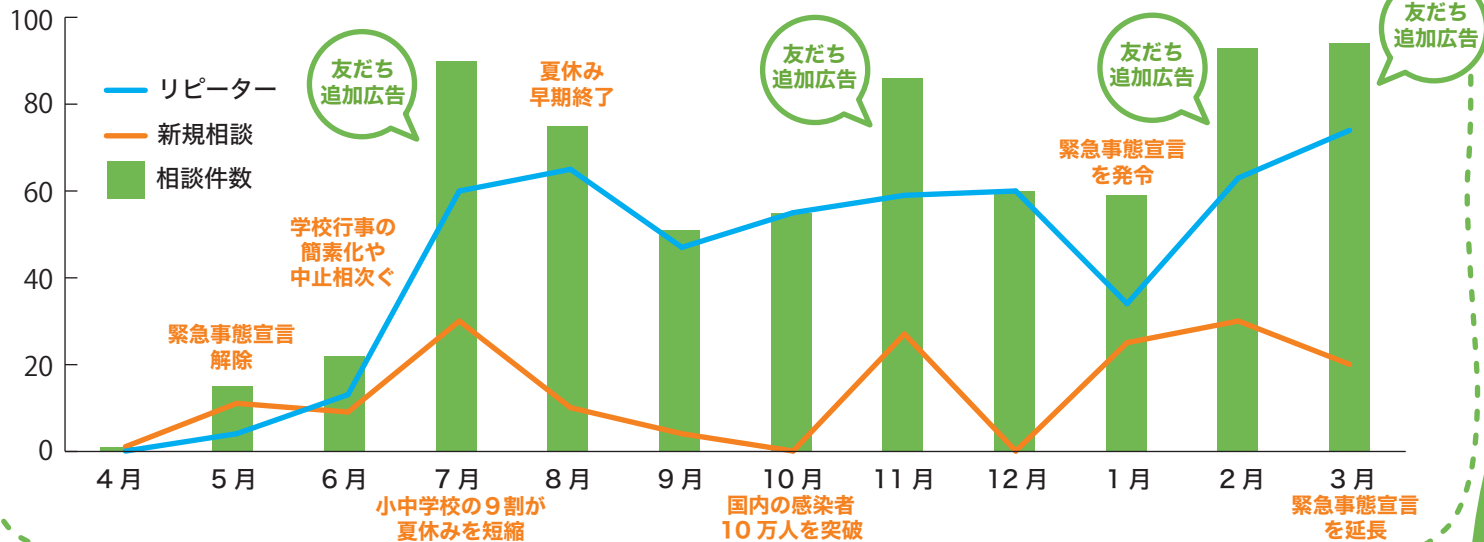
時間：19時～21時 毎週月・水・金曜日（4月～9月）、毎週月・金曜日（10月～3月）*年末年始は休止



相談件数 701 件 リピーター率 76%

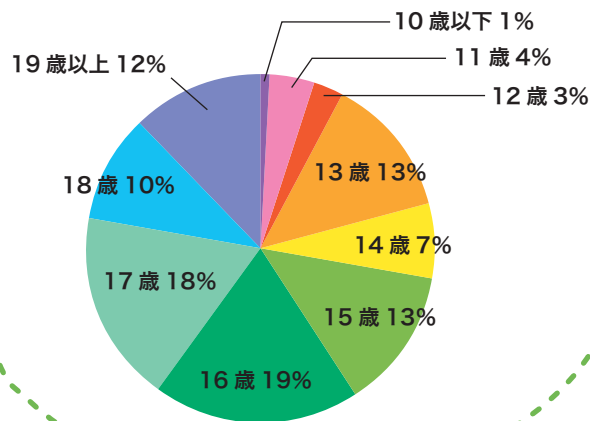
子どもしゃべり場スタートから1か月後の5月25日、緊急事態宣言が解除。学校が再開されたものの学校生活での戸惑い、「友だちができない」「学校が楽しくない」等、不安の声が寄せられてきました。多くの子どもに直接「子どもしゃべり場」の存在を知ってもらうためにはどうしたらいいか。新聞記事での紹介だけでは届きません。そこで7月、LINE友だち追加広告を活用しました。広告が配信されると、あっという間に友だちの数が増加。連動して相談件数が跳ね上がりました。

子どもしゃべり場 月別相談件数の推移（新規相談者 n=167、リピーター n=534）



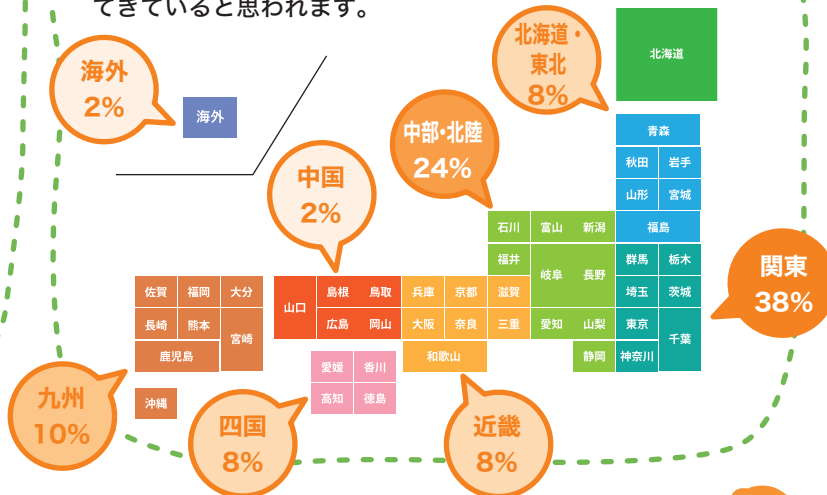
相談者の年齢 n=167

15歳、16歳、17歳が全体の50%を占め、中学生から高校生になる思春期の子どもたちが多くわかります。



相談は全国から n=50

住んでいるところの情報が得られた相談者からのデータによると、子どもしゃべり場へは地域を問わず全国からアクセスしてきていると思われます。



「子どもしゃべり場」を知ってもらうために

- ・5月9日 神奈川新聞：LINEでSOSを
- ・5月12日 しんぶん赤旗：LINE子どもしゃべり場開設
- ・LINE友だち追加広告（友だち追加数）2020年7月(78)・11月(54)・2021年1月(76)・2月(62)・3月(38)
- ・SNS投稿(2020年4月～2021年3月 団体アカウントより) Instagram:34回 Twitter:41回 Facebook:10回



子どもの声

ぼっちは嫌だ…LINE だから話せる

小学校の時からいじめられてきたので、こわくて友達ができないんです。でも、ぼっちは嫌だ。

あなたはひとりじゃないよ

「あなたはひとりじゃない」「あなたは悪くない」と伝えると自分の生い立ち、親のDV離婚、同居家族の問題、経済的な困窮…誰にも話せなかった自分の困っていることを話しはじめた。まわりには信用できるおとながない。

でも、LINE だから話せる。どんなに小さなことでもできていることを認め、自分の中に力があることに気づいてもらう。それがエンパワメントだ。LINE は一方通行でもなく、即答しなくても返事が返ってくる。だから子どもたちにはちょうどいいツール。「ひとりじゃないよ」「あなたは大切な人」…文字が残ることもちょっといい。

これからも、「一緒に考えよう」

疲れた、もう死にたい

疲れました。どうすればいいですか？
今週も学校に行けなかった。

疲れているんだね
休んでいいんだよ

親や教師は理想論ばかり押し付けてきて、話を聞いてもらえません。
もう死にたい。

私たちは、何カ月もそのままを受け入れ話を聴き続けた。ガンバってガンバってガンバリ続けている。それは、悪いことではない。自分の気持ちや考えを整理したら親に話し、高校を辞め自分で選んだ別の高校に編入することができた。友だちのこと、学校のこと、親のこと、直接言えなかった自分の思いを言葉にしたとき本当に自分がどうしたいかが見えてきた。自分の選択肢は自分で決めていい。間違ったらまた考えて選びなおしてもいい。

子どもが安心して話せる居場所が必要

コロナ禍で始めた「子どもしゃべり場」でしたが、コロナの影響だけではなく、今までの日常生活の中で、家庭（虐待・DV・ネグレクト）や学校（いじめ・体罰・ピアプレッシャー）で起きていた暴力、また貧困やジェンダーなど、さまざまな問題や悩みを抱える多くの子どもたちが繋がるきっかけの場になったと実感しています。

毎日ニュースで伝えられるのは、ほんの氷山の一角です。確かに貧困で今日の食事に困っている人に食料を届けることは最優先かもしれませんが、でも、心の渇きに苦しんでいる人に安心な場所を届けることも同じように大切なこと。心に蓋をしてしまうと、すべての感情に鈍感になります。「誰かに助けてもらっていいよ」「誰かに話してもいいよ」…知らず知らずになまった気持ちを吐き出していい。

子どもたちが何より安心して話せる居場所がこれからも必要だということがわかりました。子どもしゃべり場は問題を見つける場所ではなく、（問題になる前の）ガス抜き場として、私たちは今後も子どもの話を聴いていきます。

<寄付のお願い>

「子どもしゃべり場」を今後も継続していくために寄付をお願いいたします。エンパワメントかながわは、「認定 NPO 法人」ですので、ご支援いただける皆様には、確定申告により税制上の優遇措置を受けることができます。



発行：2021年3月 発行元：認定 NPO 法人エンパワメントかながわ

〒221-0834 横浜市神奈川区台町 11-26-103 代表者：理事長 阿部真紀

TEL：045-323-1818 FAX:045-755-7007 メール：info@npo-ek.org ホームページ：http://npo-ek.org/

Facebook：www.facebook.com/npoek/ twitter：@empowerment_k Instagram：npo_ek

デートDV啓発サイト（それって デートDV なんじゃない？）：http://1818-dv.org/ デートDV110 番相談サイト：http://ddv110.org/
ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金【コロナ禍にある「子どもの心」を守るプロジェクト子どもLINE相談】によって作成しました。